会期：2007年1月13日［土］
時間：16：00〜18：00（開場は30分前）
会場：トーキョーワンダーサイト青山 クリエーター・イン・レジデンス
入場料：無料（要事前申込・通訳付）
申込方法：FAX（03-5766-3742）、もしくはHPから（http://www.tokyo-ws.org/contact/index.html）
主催：トーキョーワンダーサイト
協力：シュウゴアーツ、キヤノン株式会社

Date: January 13, 2007 (Saturday)
Time: 16:00-18:00 (door open: 15:30)
Venue:Tokyo Wonder Site Aoyama Creator-in-Residence
Admission: Free(with Japanese-Russian interpretation)
Booking: Fax (03-5766-3742) or E-mail from HP(http://www.tokyo-ws.org/contact/index.html)
Organizer: Tokyo Wonder Site
Cooperation: SHUGOARTS, Canon Inc.

ARTIST TALK

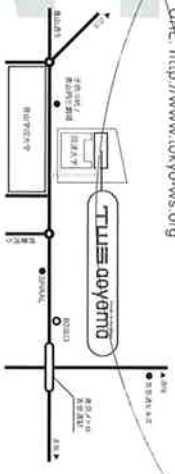
ボリス・ミハイロフ | Boris Mikhailov | 2007/1/13, SAT., 16:00 → 18:00

TOKYO WONDER SITE AOYAMA CREATOR-IN-RESIDENCE

ウクライナ出身ベルリン在住の写真家ボリス・ミハイロフが、荒木経惟氏の推薦によりキヤノン写真新世紀ゲスト審査員に招聘され、来日。来日期間中、トーキョーワンダーサイト青山：クリエーター・イン・レジデンスで滞在し、東京を背景に撮影を行います。制作をするにあたり、アーティスト・トークを開催します。鉄道エンジニアとして働きながら独学で写真を始め、旧ソ連体制下で作品を自由に撮れない時代が続いても、なお社会の変化を独自の視点で追った記録を撮るボリス。ペレストロイカ以降作品が広く紹介されるようになり、2000年ハッセルブラッド国際写真賞受賞、ハーバード大学客員教授、2002〜03年にはライプツィヒ美術大学で講義を担当するなど、写真家として高い評価を得ています。類稀なる経歴と才能を持ったボリスによるトーク、これまでの作品紹介や、東京での滞在中に何を見て、何を感じたかについて話します。ぜひご参加ください。なお、以下の予定でボリスの個展が開催されます。実際にボリスの作品を観ることができますので、こちらにもぜひご来場ください。

2006年12月22日（金）シュウゴアーツにて個展「昨日のサンドウィッチ」開催
2007年1月19日（金）〜3月25日（日）ラットホールギャラリーにて個展開催

tws aoyama
トーキョーワンダーサイト青山 クリエーター・イン・レジデンス
Tokyo Wonder Site Aoyama Creator-in-Residence
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67
コスモス青山 SOUTH棟3F
COSMOS Aoyama SOUTH 3F,
5-53-67 Jingumae, Shibuya-ku, Tokyo 150-0001
TEL: 03-5766-3732
FAX: 03-5766-3742
Email: contact@tokyo-ws.org
URL: http://www.tokyo-ws.org



表参道駅B2出口（東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線）より徒歩7分
渋谷駅東口（JR山手・埼京線・湘南新宿ライン／東急東横・田園都市線／京王井の頭線／東京メトロ銀座・半蔵門線）より徒歩8分
7 minutes walk from Omotesando Station (Tokyo Metro Ginza Line, Hanzomon Line, and Chiyoda Line)
8 minutes walk from JR Shibuya Station East Exit (JR Yamanote Line, Saikyo Line, Shonan Shinjuku Line, Tokyu Toyoko Line, Tokyu Den-En-Toshi Line, Keio Line, Tokyo Metro Ginza Line, Hanzomon Line)
お車でご来館の皆さま、近隣の有料駐車場をご利用下さい。
There is no visitors parking space, please use the nearby parking lots

tokyo wonder site
Institute of Contemporary Art and International Cultural Exchange, Tokyo